

2025年度（令和7年度）
第4回福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

1. 日時等

日 時 : 2025年（令和7年）12月19日（金）
10:00～12:00

場 所 : まなびの館ローズコム4階 大会議室

2. 出席委員

長谷川良二 会長、津田将行 副会長、安倍義弘 委員、植村二三子 委員、大園哲也 委員、
川上富美子 委員、客本牧子 委員、小林洋造 委員、妹尾和威 委員、園尾俊昭 委員、
田和草太郎 委員、藤井伸哉 委員、宮地毅 委員

3. 欠席委員

沖和真 委員、後藤学 委員、芝田全弘 委員、橋本敬治 委員、前田美都子 委員

4. 議事

- (1) 福山市一般廃棄物処理基本計画（素案）について
- (2) その他

5. 議事要旨

- 事務局より、委員定数の半数以上が出席していることが確認された。
- 会議は公開で行われた。
- 事務局より、配布資料に基づき、次のとおり説明を行った後、質疑応答を行った。
 - ・「第3章 ごみ処理基本計画」、「第4章 食品ロス削減推進計画」、「第5章 生活排水処理基本計画」及び「第6章 計画の進捗管理」

(意見の概要)

第3章 ごみ処理基本計画

○町内会が管理しているごみステーションには、町内会に加入していない方もごみを排出しているが、分別が徹底されない要因のひとつとして、町内会未加入者への分別徹底の指導が難しいことがあると考えている。このため、行政による分別の研修等の実施を検討していただきたい。

⇒分別に関する説明や出前講座を実施することは可能であるため、困ったことがあればその際にご相談いただければ対応する。

○自治会等の資源回収量が減少している要因は何か。

⇒要因は、「資源回収の実施団体数の減少」、「紙媒体の減少」及び「民間事業者が行う拠点回収に流れていること」だと考えている。

○現在実施している出前講座は、どのような内容についてのものなのか。

⇒出前講座の内容は、ごみの分別、脱炭素、水生生物等の自然環境等である。

○外国人向けの啓発活動について、外国人が所属しているグループ等との連携を図っているか。また、外国人向けの啓発活動における最も大事なことは何と考えているか。

⇒外国人向けの啓発活動としては、これまでも技能実習生を対象とした出前講座を実施している。また、外国人向けの啓発活動において重要なのは、ごみ収集日程表の表記について、やさしい日本語やルビを入れたものにするなどの工夫だと考えている。

○事業系食品ロスの削減について、福山市はどのようにスーパーマーケット等に関与しているか。

⇒多量排出事業者に対しては減量計画書の提出を求めるとともに、立入検査を実施しており、この取組の中でスーパーマーケット等の状況を確認している。なお、福山市周辺には食品リサイクル事業者がいないことから、各社独自の取組に委ねている状況にあり、当面は現在も実施しているフードドライブでの食品ロス削減の推進を継続する。

○リサイクル工場が火災により稼働していないのであれば、リサイクル率が低下するだけでなく、最終処分量が増加するのではないか。

⇒リサイクル工場の休止期間中は、「不燃（破碎）ごみ」を箕沖埋立地に仮置きしており、最終処分は行っていないため、最終処分量には計上していない状況である。

○布類の回収方法は、何を想定しているのか。

⇒家庭からの衣類を対象に、当面は、拠点回収により布類を回収することを想定している。

○計画内で「一般廃棄物の出口側循環利用率」と「リサイクル率」は同じ意味だと思うが、使い分けているのはなぜか。

⇒国の目標のみを示す部分では正式な表記である「一般廃棄物の出口側循環利用率」と記載し、他の部

分ではわかりやすい表記である「リサイクル率」と記載している。

第4章 食品ロス削減推進計画

- 施策として掲げられている「食品ロス削減に関する取組の情報発信」は非常に重要だと考えており、市民への情報発信については福山市公衆衛生推進協議会も協力できると考えている。
食品ロスに関するアンケートについて、アンケート項目はどのようにして設定したのか。
⇒アンケート項目は、他都市のアンケートを参考にするとともに、福山市の取組状況や啓発したい内容を含め設定した。

- 生ごみ減量について、生ごみの水きりが重要だと考えるが、どのように考えているか。
⇒福山市ではこれまで使いきり、食べ切り、水切りの「3きり運動」を推進しており、今後も継続するよう考えている。

- 食品ロスに関する啓発方法について、具体として考えていることはあるか。
⇒食品ロスについての効果的な啓発方法は今後考えていく。また、福山市が行うフードドライブについては、福山市ホームページへ掲載している。

- フードドライブ等の食品ロス削減のための取組は重要だと考えるが、専業農家等の生産者への影響や関係性はどのように考えているか。
⇒福山市が実施しているフードドライブにおいては、食料の有効活用だけでなく福祉的な視点も理解いただき、経済活動上無理のない範囲で協力をいただいているという認識である。

- 感染症伴う学級・学校閉鎖や気象警報等での臨時休校の際に提供されないことになる給食のパン等は、フードドライブ等に活用できると考えているが、福山市においてそのような事例はあるか。
⇒福山市は主に自校炊飯方式であり、一部の地域は給食センター方式であるが、どちらの場合も当日の朝の調理時に食品ロスが発生しないよう調整していると認識している。なお、子どもの体調や好みによる食品ロスの問題には、教育委員会による食育により対応していると認識している。

第5章 生活排水処理基本計画

第6章 計画の進捗管理

- 汚水衛生処理率とは、どのように算出されるものか。
⇒汚水衛生処理率は、汚水衛生処理人口 ÷ 総人口 × 100 である。

- 汚水衛生処理率の数値目標について、「2024年度（令和6年度）までに」と記載されているが誤記ではないか。
⇒誤記であるため修正する。

- し尿等処理費のうち、その他とはどのような費用か。

⇒その他の費用は、建設工事や改良工事を行う際の調査費等である。

以 上